

Center News

■センターNEWS■ November 2008 No.10

— 愛知大学三遠南信地域連携センター —
文部科学省私立大学学術研究高度化推進事業



CONTENTS

- 巻頭言…1
- センター事業の取り組み状況…2
 - ・文部科学省からの中間評価の結果について
 - ・東栄町元気なまちづくり事業調査を受託
- センター・トピックス…3
 - ・三遠南信コミュニティカレッジ「三遠南信“まつり”の魅力を考える」開催
 - ・愛知県委託事業にとよがわ流域講座修了生の事業が4件採択される
 - ・東三河生物多様性保全事業に愛知大学も参加
 - ・センターホームページリニューアル
 - ・三遠南信コミュニティカレッジ「鉄道の未来学」がスタート

◆巻頭言◆

「三遠南信」～想いから行動へ～



少子高齢化、人口減少時代の到来の中で、大都市一極集中や地方間格差拡大が進んでいます。一方で、今年7月には国土形成計画が閣議決定され、広域ブロックの区割り案が示されました。また、経団連などを中心に「道州制」導入についての活発な議論が交わされるなど、「地方分権」に対する関心が高まっています。

こうした中で、当地域では、昨年度末に「三遠南信地域連携ビジョン」がとりまとめられ、広域連携の目指すべき姿や具体的な取組施策について基本方針が示されました。

これに伴って、「三遠南信」の地域連携は、「どうあるべきか」という「検討」の段階から「どのように進めていくのか」という「推進」のステップに移ることになりました。

現在、浜松市企画課を中心に、ビジョンの推進、進捗管理を行うための組織として、「三遠南信地域連携ビジョン推進会議（通称：SENA）」の設立準備が、着々と進められており、より実効性の高い地域連携活動への体制整備が図られようとしています。

ただ、ここで忘れてはいけないことは、ビジョンに掲げられた各テーマは地域住民、行政、経済界等、圏域に暮らす我々自身に関わる課題であって、ビジョンに示された将来像の実現のためには、「誰かがやる」

●地域づくりサポーターの活動から…5

- ・スマーカレッジチャレンジショップ2008
- ・新城工コ農業体験に参加して
- ・異なる地域を知るということ

●三遠南信地域連携センター活動記録（2008.6～2008.10）…7

- センター活動記録（2008.6～2008.10）…8
- 編集後記…8

浜松商工会議所 会頭 御室健一郎

のではなく「私がやる」という当事者意識が不可欠だということです。今こそ、「こうなったらしい」という皆様の「想い」を「行動」にして表していく時だと思います。

我々商工会議所・商工会としても、グローバル経済の進展や事業所数減少、事業承継問題等、中小企業が抱える諸問題の対応については、より広域的な視野に立って連携、協力していく必要があると感じておりますが、本年7月には遠州・東三河の7商工会議所による会員交流会が、11月には三遠南信地域の8信用金庫による「第1回しんきんサミット」が開催されるなど、既に経済界ではビジョンに謳われたテーマに呼応した事業を、各組織が自発的に実施、展開する動きも出てまいりました。

是非、こうした活動の広がりによって、人的交流や情報交流が一段と活発化し、「三遠南信」という枠組みが幅広く地域に浸透し、次々と化学反応を起こすことで、新しい付加価値が創造されていくことを願いますとともに、本地域連携を支える最大のインフラとも言うべき「三遠南信自動車道」の早期全面開通をはじめ、社会基盤の整備促進にもこれまで以上に、注目してまいりたいと考えています。

愛知大学地域連携センターにおかれましては、今後とも、これまで培われた調査研究実績を活用し、地域住民、行政、経済界を有機的に結びつける連携ネットワークの重要なハブ機能として、その存在感を益々高めていかれますことを期待しております。

センター事業の取り組み状況

文部科学省からの中間評価の結果について

センター長 佐藤元彦

文部科学省の私立大学学術研究高度化推進事業（「社会連携」分野）として2005年度に採択された本センターの基幹的プロジェクト「グローカルな視点に立った『地域づくり』トータルシステムの開発」（特別補助は2009年度までの5年間）は、昨年度が3年度目の中間年度にあたり、文部科学省からの求めに応じて中間評価を受けた。中間評価のための報告書は昨年9月に提出されていたが、評価結果は、先月になってようやく届けられた。

中間評価は、同省・私立大学戦略的研究基盤形成支援検討委員会の2名の委員による書面審査の形で行われ、本センターの上記プロジェクトには、総合評価として2名ともにA（着実な進捗が見られる）の評価が示された。評価は、A、B（改善すべき点が見られる）、C（研究に進捗が見られないなど引き続き研究費の補助を行うかどうか検討を要すると思われる）の3段階によって行われたが、A評価は全体の50%であった。

総合所見の欄に記載されている内容（全文）は、以下のとおりである。

- ・本プロジェクトの目標である住民参加を取り入れた持続可能な地域社会づくりとそれを継続的に支える「新しい公」の創造に向けて、「三遠南信地域連携センター」を中心に活発な地域との連携や研究活動が展開されている。市町村やNPOとの連携も確保されており、研究成果の公表という点ではなお一層の努力が必要と思われるが、全体として、研究目標の達成が十分に期待

される。

- ・自治体やNPOとの連携、住民参加の地域づくりという今日的課題に積極的に取り組んだ研究として意義が認められる。自治体や他大学との研究ネットワークが構築され共同事業が展開されている点、さらに学生や教職員が実際に地域活動に参加して経験を積んでいる点は、当プロジェクトの独自の成果として評価できる。ただし、「地域づくり」という概念の曖昧さが全体の研究枠組みをみえにくくしている点について工夫が必要と思われる。また、作業内容や課題の広がりに対応したセンター機能の強化を望みたい。

なお、選定時には「留意事項」として、「研究組織について、計画に加え、市町村や地域住民が積極的に関わる必要があるのではないか。シンポジウムを開催するというだけでなく、具体的目標を設定し、事業を進められたい。」とされていたが、今回の中間評価では、その点について、以下のように記載されている（全文）。

- ・市町村や住民参加の必要という留意事項については熱心に取り組みが行われており、対応は十分といえる。
- ・市町村や地域住民が積極的に関わる必要性が指摘されていた。この指摘を受けて、研究組織への地方公共団体関係者、NPO関係者の参加、毎年1回の「三遠南信サミット」の開催などへの対応策が講じられており、留意事項への対応は十分と認められる。

東栄町元気なまちづくり事業調査を受託

事業責任者 泰嶋久好

平成20年8月5日付で東栄町長から調査事業を受託した。この調査は、東栄町と愛知大学の連携事業一環でもあり三遠南信地域連携センターが担当窓口である。東栄町は、平成18年度から町単独事業として、「元気なまちづくり支援事業」を行政区を単位として展開している。今回の調査対象となった東薦目地区での調査は、集落が持つ地域力の点検、地域の課題抽出、地域を元気にする力を引き出すための方策を探ることを目的において実施している。11月中旬に現地調査を終え翌年1月には、現地での中間報告を予定している。市町村の地域政策

とりわけ山村・中山間地施策では、限界集落の出現が取りざたされているが呼称も含めて重く冷たい響きもある。愛知県では小規模高齢者集落、長野県では生涯現役集落と呼んでいる。調査対象である東薦目地区は、静岡県浜松市と境を接する奥地にある集落もあるが、国内外で活動している「和太鼓集団・志多ら」の若者が共住している集落もある。東薦目地区の方々と係わらせて頂きながら東栄町との連携で大学が果たせる役割と場も考えて行きたい。



センター・トピックス



三遠南信コミュニティカレッジ「三遠南信“まつり”の魅力を考える」開催

2008年度春のコミュニティカレッジとして「三遠南信“まつり”の魅力を考える」を7月5日から8月2日まで5回の講座として実施した。これは、昨年度までのコミュニティカレッジ等の企画が秋に集中するとの反省点にたって春に実施したもので、会場も大学と新城文化会館の2会場とするなど参加者の利便をはかった。

第1回講座は、藤田佳久先生に三遠南信地域のまつりを総括的にお話いただき、第2回から第5回までは、奥三河、東三河、遠州、南信州の各地域のまつりを取り上げ、三遠南信地域のまつりの多様性、民俗文化としての奥深さを味わうとともに、その伝統を維持していくための課題を探った。また、まつりの楽しさ、華やか

さを写真や作品で味わってもらう企画として、山本宏務氏の写真展、柄久保操氏のチタンアート作品展示会をあわせて行った。会場分散は必ずしも参加者の大幅増に結びつかなかったが、今後は遠隔講義（テレビ会議）システム等の導入による多地点での開催方式を検討していきたい。

愛知県委託事業にとよがわ流域講座修了生の事業が4件採択される

愛知県は、これまで東三河の母なる川“豊川”の「流域圏一体化」「流域資源の活用」等に資する「豊川流域圏づくり推進事業」に取り組んできているが、2008年度は流域圏の自主的活動団体を対象に「豊川流域圏づくり」の実践的具体的な取組み活動を委託事業として公募した。これに対して、昨年とよがわ流

域大学・流域圏講座（本学、県、国交省等の連携事業）で成果発表した3件の企画提案及び連携センターが呼びかけて取り組んできた「共同提案事業」の一つの計4事業が応募し、審査の結果採択され、それぞれ事業を展開している。4事業のテーマは、「“海・山・野”三地区トライアングル交流」「“山城”史跡の有効活

用を目指したお城を生かした流域圏づくり」「みずの絆の再生をめざす環境保全活動と交流推進事業」「みんなで歩こう豊川」で、2009年1月末に事業を取りまとめる方向で精力的に活動をすすめており、連携センターとしてもこれらの活動を支援していくこととしている。

東三河生物多様性保全事業に愛知大学も参加

生物多様性条約締約国会議COP 10が2010年に愛知県名古屋で開催される。これを機に東三河地域での生物多様性保全事業を促進するため、市民団体、行政、大学が一体となって活動を展開することになった。具体的には、環境省の生物多様性保全推進支援事業の一つとして、穂の国森づくりの会、豊橋うみがめクラブ、東三河自然観察会、東三河懇話会、愛知県、豊橋市、愛知大学の7団体で協議会（東

三河自然環境ネット）を組織し、2008年度から2010年度までの3年間にわたって、アカウミガメ保護管理、豊川流域課題調査・保全、フィールド保全・人材育成の各事業を推進する予定である。この事業に愛知大学が参画することになったきっかけは、連携センターがこれまですすめてきた「豊川流域圏づくり連携事業」をさらに発展させ、「豊川流域案内人（仮称）」育成事業を検討していたところ、生物多様性保

全事業と連携して実施できないかとの協力要請があつたことから具体化し、協議会参加が実現したものである。

2008年度は、アカウミガメ実態調査と孵化場設置、「東三河自然探索入門」として東三河の湿地・湿原、河畔林、干潟、里山、人工林、岩石・断層、植生等多様な自然環境を理解する3回の視察、シンポジウム、人材育成のためのテキスト基礎編の作成を中心に事業がすすめられる。

センターホームページリニューアル

この度、センターではホームページを全面リニューアルした（暫定）。今回のリニューアルによりデザインを一新し、より見やすく、よりわかりやすいホームページとなるように心がけた。リニューアルの主な内容は、

①レイアウトの改訂

- ・トップページにセンターが開催する「イベント概要」と「お知らせ」を掲載。
- ・センターの定期刊行物である「センターニュース」をトップページからダウンロードが可能に。

②カテゴリを明確化

・センターの活動内容や状況を4つのカテゴリに分類したうえでグローバルナビゲーションを配置し、コンテンツをわかりやすく、明確化した。

・さらにカテゴリごとにローカルナビゲーションを配置し、閲覧ページの階層ポジションを分かりやすくした。

また、センターでは三遠南信コミュニティカレッジとして愛知県や国土交通省などと連携して実施してきた「豊川流域大学・流域圏講座」のこれまでの取り組み状況などを紹介したページも併せて開設した。



なお、リニューアルに併せて、ホームページのアドレス(URL)も変更している。

三遠南信コミュニティカレッジ「鉄道の未来学」がスタート

10月25日（土）、センターが主催する三遠南信コミュニティカレッジ「鉄道の未来学」の第1回講座が、愛知大学豊橋校舎本館で開かれた（スケジュールなどは下記表を参照）。11月29日（土）まで全6回シリーズで開催する。三遠南信地域の鉄道だけでなく、まちづくり・都市機能の活性化へむけた取り組みの中核として鉄道を活用した福井県のえちぜん鉄道や富山ライトレールなどの事例を取り上げ、各鉄道・路線の専門家より講演していただく。

当センターは設立以来、三遠南信地域連携の鍵は、それを支えていく住民であり、人々の意識や生活が重要であるとの認識の下、それに寄与する活動を展開してきた。また、昨年11月に開催された三遠南信サミットの住民セッションでは、「みち」や道路も大事であるが、JR飯田線をはじめとして、人々を結ぶ鉄

道の役割も重要ではないかとの声をうかがった。こうした背景を反映して、今回のコミュニティカレッジでは鉄道をテーマとして選定した。

モータリゼーションが急速に進展するなかで、地方圏における鉄道・バスなどの公共交通は衰退してきた。しかし、高齢化社会、人口減少、環境問題の深刻化について考えるとき、地方都市の公共交通システムを復活・維持させようという住民運動は、高まる一方である。本コミュニティカレッジの応募総数が80名におよんだことからも、鉄道を通して豊かな地域社会の再構

築をめざす皆さんのがうかがえる。

そのため当初は各回の定員を50名と想定していたが、幅広い年齢層から多くの方々が応募されたため、そのご期待に沿うかたちで全員をお受けすることになった。第1回では「鉄道未来予想図」をテーマに、東海旅客鉄道（株）の東海鉄道事業本部長・中村満氏が、確実な経営と先進技術に支えられた同社の事業概要を解説された。52名の参加者は、鉄道が地域に果たす役割について真剣に耳を傾け、講演後には熱のこもった質疑応答が繰り広げられた。

三遠南信コミュニティカレッジ「鉄道の未来学」

第1回 10月25日(土)	鉄道未来予想図	中村 満(東海旅客鉄道(株)東海鉄道事業本部長)
第2回 11月 1日(土)	飯田線ろまん100年	日向聖一(東海旅客鉄道(株)飯田支店長)
第3回 11月 8日(土)	路面電車と 豊橋のまちづくり	田中敏和(豊橋鉄道(株)取締役鉄道部長)
第4回 11月15日(土)	天浜線のこれから	井口健二朗(天竜浜名湖鉄道(株)代表取締役社長)
第5回 11月22日(土)	地域活性化と鉄道	川上洋司(福井大学大学院工学研究科教授)
第6回 11月29日(土)	LRT導入に向けて 市民が果たした役割	岡本勝規(北陸線・ローカル線の存続と公共交通をよくする富山の会世話人)

地域づくりサポーターの活動から

サマーカレッジチャレンジショップ2008

現在、豊橋市の中心市街地は空き店舗などの問題を抱えています。この問題に対し、行政、TMO、商店街の方々そしてNPO等は、豊橋市の中心市街地の活性化を図ろうと様々な取り組みをしています。その試みのひとつとして、学生が中心となり2002年より夏休みを利用してチャレンジショップを毎年開催しています。

今年度は愛知大学と豊橋技術科学大学、豊橋創造大学の3大学の学生が連携し実行委員を結成しました。3大学から集まった総勢20名により、8月3日から8月24日までの期間において空き店舗を利用してお店を経営しました。そして、私たち地域づくりサポーターからは私を含め木全雅裕、竹内千晶、小林藍の4名が会計担当や店舗設営担当、イベント担当として活躍しました。また、お店の場所が『こども未来館』

の向かい側ということもあり、連日のように小学生や親子で店内が賑わっていました。こども未来館の方々からの協力もあり、私たちもこども未来館において広報活動やイベントを行ないました。

そして、私はチャレンジショップにおいてイベント担当のリーダーとして活動しました。イベント内容を企画段階から他大学のメンバーと何度も話し合い、チャレンジショップの事業全体を盛り上げようとした。特に、「豊橋アカペラストリート」というイベントでは3大学から多くのサークルが集まり毎回すばらしい歌声を披露していただきました。その他には「530運動」での市街地清掃や「学生アートギャラリー」などで松葉小学校と松山小学校の学生に「豊橋の好きなところ」をテーマにポスターを作成していただきました。

経済学部4年 村上貴裕

今後はこのチャレンジショップの活動における店舗を経営した経験や他大学とのつながりを活かし、幅広い地域づくり活動に取り組んでいきたいです。



当事業のテーマである『I ❤ TOYOHASHI』は、多くの方々に「豊橋の魅力」や「愛」について考え再発見してもらいたいという意味が込められています。

新城エコ農業体験に参加して

今回このイベントに参加して、まず初めて新城にいけることができたこと、そこで地域の方々と接することができたことを嬉しく感じた。テレビなどで見る景色と、実際にやって感じる雰囲気は全然違うものであるからだ。天気が良かったこともあって空にはパラグライダーを楽しむ人が見えたり、休耕田に植えられたコスモスが爽やかな風に揺れて秋を感じさせてくれたり、とても気持ちのいい1日だった。

午前中は畑を耕し菜の花の種を播いた。作業はやってみるとなかなか大変でひと汗かいた。な

ので、そのぶんお昼ごはんが美味しかった。休耕田には大きく「ナノハナ」という文字を描くように種を播いた。3月の菜の花祭りのころにはきれいな花を咲かせているだろう、と聞いてとても楽しみである。ぜひ見に行きたいと思った。午後からは、里山と大谷城址の見学に連れて行って頂いた。新城・上平井地区には有名な城址が3つもあり、地元の方はこれがあまり知られていないのが残念だとおっしゃっていた。また山にはたくさんの竹が生えていて、この竹を使って地産品が出来ないかと考案中であった。

人文社会学科3年 大島あすか



このような隠れた名所・資源がたくさんある地域は少なくないと思う。それを見つけて、価値あるものと捉えられるかどうか…改めて視点を変えて物事を考えることは大事だと思った。

体験終了後に私たち参加者は「まい」という豊川流域圏通貨を頂いた。その通貨で手作りの地

产品と交換してもらえた。思い出は忘れたくなくても薄れていってしまうので、こうして形に残せることは嬉しいと思った。私は「まい」のことをこのとき初めて知り、なぜ流域圏?と思った。しかし話を聞いていくうちに、豊川流域圏の人々は川を通じて繋が

っているということがわかった。今まで普段使っている水のこと、ましてその上流地域がどのような状況に置かれているかなど考えたことがなかった。大切なことに気づかせてもらえた、貴重な1日であったと思う。



異なる地域を知るということ

私は地域を知ることの一環として新城市上平井地区を訪れ、工コ農業体験に参加させていただいた。工コ農業という私には馴染みのない言葉を実際に体験することでどのようなものか知り、私なりの解釈をすることができた。近年は化学肥料、化学農薬の多用によって農地の衰えが問題となっており、それは生産力の低下を引き起こすことになる。この衰えを防ぐため、環境に配慮しながら農業を行う場所が工コファーマー農地である。農業の基本となる土作りは有意義な方法で行われていた。上平井では公民館から周辺を見渡しただけでも様々な場所でコスモスが咲いており、それらは観賞用なのだと地元の方から伺った。やがて花は収穫せず土と一緒に耕され、次の時期に作る作物の肥料になるようだ。このような緑肥によって土に害が及ぶことなく栄養を取り入れることが出来る

のだろう。

今回、私が体験させていただいたのは菜の花の播種である。農業を行ったことのない私にとっては初めての体験ばかりだった。土の均し方ひとつに苦戦する私に地元の方々は声をかけてくださり、百姓は大変だろうと仰った。私は新城市から下流にある豊川市に住んでいる。自宅周辺に田畠はあるが農業経験のない私にはこの一言が心に残り、上流に住む方々の思いや生活の様子を少しでも知らなければならないと感じた。私たち下流に住む者は上流からの水を受けて生活している、という重要なことを私は体験の後に理解した。上流の方々が農業などによって土地の整備を行い、その整備がなされるからこそ自然の健康が保たれている。健康が崩れてしまえば自然のサイクルも狂い、下流に住む私は今のようにいつでも水が使える状態ではいられないだろ

短期大学部1年 河津奈々穂

う。私は上流の方々に感謝し、そして体験等を通じて互いを知った上でのことの大切さを考えなければならない。単に工コ活動は良いものだ、ということに加えて今回の体験では環境が守られることが何に通じるのかを知ることが出来た。私達が撒いてきた菜の花もやがては土の肥料となるだろう。その土地が衰えることなく次の作物を実らせるなら、この事実が地域の方の活性力となってほしい。関係の異なる両者の交流、生活の共有が必要であり有意義なものだと私は感じた。



◆◆◆◆◆ 三遠南信地域連携センター活動記録(2008.6~2008.10) ◆◆◆◆◆

月	日	曜日	研究室・委員会等名	会 場	出席者・概要
6月	2日	(月)	運営委員会(08-4)	センター事務室	
	13日	(金)	国土形成計画「市民講座」第1回 テーマ:国土形成計画について	車道校舎K803	講師:石原 篤(国土交通省中部地方整備局企画部事業調整官、中部圏広域地方計画推進室総括副室長) 岸本、山本、加治が運営・参加
	16日	(月)	運営委員会(08-5)	センター事務室	
	20日	(金)	国土形成計画「市民講座」第2回 テーマ:シームレスアジアと広域地方計画	車道校舎K803	講師:センター長 古河、山本、加治が運営・参加
	26日	(木)	運営委員会(08-6)	センター事務室	
	27日	(金)	国土形成計画「市民講座」第3回 テーマ:中部圏の産業経済と国土形成計画	車道校舎K803	講師:加藤義人(三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社 研究開発第一部長) 山本、加治が運営・参加
7月	5日	(土)	2008年度三遠南信コミュニティカレッジ 三遠南信まつりの魅力を考える 第1回講座「三遠南信のまつり」	本館5階 第3・4会議室	講師:藤田佳久
	11日	(金)	国土形成計画「市民講座」第4回 テーマ:国土形成計画と市民参加	車道校舎K803	講師:大沢泰一(社団法人地域総合研究所 理事長) 山本、加治が運営・参加
	12日	(土)	2008年度三遠南信コミュニティカレッジ 三遠南信まつりの魅力を考える 第2回講座「奥三河のまつり」	新城文化会館 304会議室	講師:伊藤勝文(東栄町花祭会館 館長)
	16日	(水)	運営委員会(08-7)	センター事務室	
	18日	(金)	国土形成計画「市民講座」第5回 テーマ:県境地域と広域地方計画	車道校舎K803	講師:戸田敏行(社団法人東三河地域研究センター 常務理事・主席研究員) 山本、加治が運営・参加
	19日	(土)	2008年度三遠南信コミュニティカレッジ 三遠南信まつりの魅力を考える 第3回講座「東三河のまつり」	本館5階 第3・4会議室	講師:山本宏務(写真家・愛知大学オープンカレッジ講師)
	25日	(金)	国土形成計画「市民講座」第6回 パネルディスカッション:国土形成と新たな公	車道校舎 コンベンションホール	コーディネーター:大貝 彰(豊橋技術科学大学教授・地域協働 まちづくりリサーチセンター長) パネリスト: ・石原 篤(国土交通省中部地方整備局 企画部事業調整官 中部圏広域地方計画推進室総括副室長) ・加藤義人(三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社 研究開発第一部長) ・大沢泰一(社団法人地域総合研究所 理事長) ・戸田敏行(社団法人東三河地域研究センター 常務理事・主席研究員) ・服部 敦(中部大学・内閣府地域再生事業推進室 上席政策調査員) ・センター長 山本、平川、加治が運営・参加
	26日	(土)	2008年度三遠南信コミュニティカレッジ 三遠南信まつりの魅力を考える 第4回講座「遠州のまつりー浜松まつりを中心にしてー」	本館5階 第3・4会議室	講師:山田有一(浜松まつり語り部)
	27日	(日)	里山・里地・里の水を育む 新城工コファーマー2008ファーストイベント	新城市上平井地区	参加者:平川、地域づくりサポートー(大橋・木全・村田・吉川)
	28日	(月)	運営委員会(08-8)	センター事務室	
8月	2日	(土)	2008年度三遠南信コミュニティカレッジ 三遠南信まつりの魅力を考える 第5回講座「南信州のまつり」	新城文化会館 304会議室	講師:桜井弘人(飯田市美術博物館 学芸員)
	20日	(水)	東栄町「集落調査」現地説明会	東栄町東薙目地区プラザ	黍嶋、地域づくりサポートー(村上・木全・大橋)
	26日	(火) (水)	東栄町元気なまちづくり事業「集落調査」	東栄町東薙目地区	黍嶋、加治、地域づくりサポートー(大橋・木全・高木・任・村上、 山口・吉川)
	28日	(木)			
9月	4日	(木)	運営委員会(08-9)	センター事務室	
	12日	(金)	東栄町「健康づくり大学」事業推進協議会	東栄町役場	センター長が出席
	25日	(木)	運営委員会(08-10)	センター事務室	
	27日	(土)	梅田川フォーラム ファースト・アクション・イベント2008	豊橋市植田町(植田橋付近)	地域づくりサポートー(大橋・木全・竹内・村田)
	28日	(日)	豊川・渥美・前芝フォーラム2008	豊橋市前芝海岸	平川、地域づくりサポートー(木全・村田)
10月	4日	(土)	2008年度第1回センター会議	研究館1階 第1・2会議室	
	5日	(日)	七郷一色体育祭	新城市七郷一色	黍嶋、山本 地域づくりサポートー(木全・鈴木・村上・吉川・大橋・河津・竹内・平井)
	9日	(木)	運営委員会(08-11)	センター事務室	
	18日	(土)	新城工コファーマー2008	新城市上平井地区	平川、地域づくりサポートー(大島・河津)
	25日	(土)	2008年度三遠南信コミュニティカレッジ「鉄道の未来学」 第1回講座「鉄道未来予想図」	本館5階 第3・4会議室	講師:中村満(東海旅客鉄道(株)東海鉄道事業本部長)
	28日	(火)	運営委員会(08-12)	センター事務室	

サポーター活動記録(2008.6~2008.10)

日付	活動内容
6月 6日(金)	第4回地域づくりトータルシステム勉強会 黍嶋、澤田、サポーター(村上、村田、木全、山口、吉川、張、鈴木夏、高木、大橋)
6月11日(水)	GIS第7回勉強会 蔣先生、サポーター(陶、木全、草田、山下)
6月13日(金)	第5回地域づくりトータルシステム勉強会 黍嶋、澤田、サポーター(村上、木全、吉川、鈴木夏、大橋、ファン)
6月18日(水)	GIS第8回勉強会 蔣先生、サポーター(陶、木全、草田、山下)
6月24日(火)	第3回サポーター一定例会議 黍嶋、岸本、平川、菊川〔長野県壳木村役場〕、サポーター(村上、木全、山口、鈴木駿、鈴木一、村田、吉川、陶、鈴木夏、草田、高木、張、大島、竹内、山下)
7月 4日(金)	第6回地域づくりトータルシステム勉強会 黍嶋、澤田、サポーター(村上、吉川、木全、鈴木一、山口、村田、鈴木夏、高木、張、大橋、ファン、大島)
7月 7日(月)	第2回だがしろう会議 サポーター(村上、鈴木駿、木全、村田、乙部、吉開、大橋、河津)
7月11日(金)	第7回地域づくりトータルシステム勉強会 黍嶋、澤田、サポーター(村上、木全、村田、大橋、ファン、張、大島)
7月14日(月)	第3回だがしろう会議 サポーター(山口、村上、木全、村田、大橋)
7月16日(水)	GIS第9回勉強会 サポーター(陶、村田、山下)
7月18日(金)	第8回地域づくりトータルシステム勉強会 黍嶋、澤田、サポーター(村上、吉川、木全、山口、村田、鈴木夏、張、大橋、ファン、大島)
7月29日(火)	第4回サポーター一定例会議 黍嶋、澤田、サポーター(村上、木全、鈴木駿、鈴木一、大橋、山下、大島、竹内、小林)
7月30日(水)	GIS第10回勉強会 西尾、サポーター(陶、村田、草田、山下) 第9回地域づくりトータルシステム勉強会 黍嶋、澤田、サポーター(村上、木全、山口、鈴木一、鈴木夏、高木、大橋)
8月20日(水)	第10回地域づくりトータルシステム勉強会 黍嶋、澤田、サポーター(村上、木全、高木、大橋)

日付	活動内容
8月26日(火)	東栄町現地調査 黍嶋、加治、サポーター(村上、木全、高木、大橋、任)
8月27日(水)	東栄町現地調査 黍嶋、加治、サポーター(村上、木全、高木、大橋、任)
8月28日(木)	東栄町現地調査 黍嶋、加治、サポーター(村上、木全、大橋、任)
9月16日(火)	第11回地域づくりトータルシステム勉強会 黍嶋、澤田、サポーター(木全、吉川、鈴木一、山口、大橋、ファン、張)
9月24日(水)	GIS第11回勉強会 サポーター(陶、村田、草田、山下)
9月26日(金)	第5回サポーター一定例会議 黍嶋、岸本、澤田、サポーター(村上、木全、山口、吉川、鈴木駿、鈴木一、大橋、高木、草田、鈴木夏、張、大島)
10月 3日(金)	GIS第12回勉強会 サポーター(陶、村田、草田、鈴木駿、山下、平井)
10月 5日(日)	新城市七郷一色村体育祭 黍嶋、サポーター(村上、木全、鈴木一、吉川、大橋、河津、竹内、平井)
10月10日(金)	GIS第13回勉強会 サポーター(陶、村田、草田、鈴木駿、山下、平井)
10月15日(水)	第12回地域づくりトータルシステム勉強会 黍嶋、澤田、サポーター(木全、吉川、山口、鈴木駿、大橋、ファン、張、高木)
10月17日(金)	GIS第14回勉強会 蔣、佐藤、サポーター(陶、村田、草田、鈴木駿、山下)
10月20日(月)	第13回地域づくりトータルシステム勉強会 黍嶋、澤田、サポーター(村上、木全、山口、吉川、鈴木一、高木、ファン、大橋)
10月24日(金)	GIS第15回勉強会 サポーター(陶、村田、草田、山下)
10月27日(月)	第14回地域づくりトータルシステム勉強会 黍嶋、澤田、サポーター(村上、木全、吉川、高木、大橋)
10月29日(水)	GIS第16回勉強会 蔣、佐藤、西尾、澤田、サポーター(陶、村田、草田、平井)
10月30日(木)	第6回サポーター一定例会議 黍嶋、岸本、澤田、サポーター(村上、木全、村田、大橋、竹内、河津)
10月31日(金)	GIS第17回勉強会 サポーター(陶、村田、鈴木駿)

編集後記

世の中は、エコエコエコの大合唱、二言目にはCO₂削減である。これには少々茶々を入れてみたくなるような今日この頃である。ところで、先進国の民の暮らしぶりを眺めていると、個人の消費が経済の最大の牽引力であり、世界経済を支える原動力といわれるのも肯ける。だが、大量に消費することが生産を促し経済に活力を与えるという仕組は何かエコに根本的に反するシステムであるような気がしてしまうのは私だけだろうか。

経済成長を維持しながらCO₂削減を進めること自体、虫がいい話に思えてしまう。本当のところは、経済規模がいまより何割か縮小する(例えば数十年前の暮らしに戻る)くらいのことがなければ立ち行かないのではないだろうか。しかし、そんなエネルギー消費の削減のために耐乏生活を強いられることを甘受できる人口はそうはいまい。しかし、世界の経済レベルを維持し拡大させることができ一方で大前提としてあるのなら、やはりそれに向けて行動を起こすしかない。いまの生活のクオリティーを犠牲にせずエネルギー消費の削減に結びつくような新たな可能性に向けてである。

なにごとも最初は掛声から始まるのだろう。メッセージはしだいに身体に染み付き、刷り込まれ、身体が動いていく。そしてそのうちに大きなうねりとなっていく。気がついたら、自ら掲げた目標を達成していた。そんなときが早く来るこことを念じつつ。(K)

表紙写真:山間地域の集落、遠州水窪(撮影・平川雄一)

編集・発行

愛知大学三遠南信地域連携センター運営委員会

〒441-8522 愛知県豊橋市町畠町1-1

Tel : (0532)47-4157 Fax : (0532)47-4576

URL : <http://taweb.aichi-u.ac.jp/sen-center/>

Email : sen-center@ml.aichi-u.ac.jp

発行日 : 2008年11月30日